

平成23年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年1月13日

上場会社名 株式会社 エムビーエス

上場取引所 福

コード番号 1401 URL <http://www.homemakeup.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山本 貴士

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長

(氏名) 栗山 征樹

四半期報告書提出予定日 平成23年1月13日

TEL 0836-37-6585

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年5月期第2四半期の業績(平成22年6月1日～平成22年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第2四半期	543	37.9	33	511.1	37	—	10	—
22年5月期第2四半期	394	△2.5	5	△18.0	△6	—	△6	—
		1株当たり四半期純利益				潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		
		円 銭				円 銭		
23年5月期第2四半期			1,615.52		1,610.06			
22年5月期第2四半期			△1,016.93		—			

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率 %	1株当たり純資産 円 銭	
	百万円		百万円			円 銭	
23年5月期第2四半期	1,177		413		35.1	66,674.92	
22年5月期	1,103		403		36.5	65,059.39	

(参考) 自己資本 23年5月期第2四半期 413百万円 22年5月期 403百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計 円 銭
	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭	
22年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
23年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
23年5月期(予想)			—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年5月期の業績予想(平成22年6月1日～平成23年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	1,097	15.1	27	△56.7	23	△46.1	10	△70.5	1,698.14	

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 (詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。)

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年5月期2Q 6,195株 22年5月期 6,195株

② 期末自己株式数 23年5月期2Q 一株 22年5月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年5月期2Q 6,195株 22年5月期2Q 6,195株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(3) 繼続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
【第2四半期累計期間】	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 繼続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
4. 補足情報	11
(1) 生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

（1）経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、中国などを中心とした新興国等への外需の拡大や引き続き行われている政府の景気刺激策による効果等を背景に企業収益は改善傾向にあるものの、為替や株価の動向及びデフレの継続などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が関連致します建設業界におきましても、引き続き公共工事の抑制や民間設備投資水準が低調なこと等により、一層厳しさを増しております。

このような経済・業界動向のもと、弊社は、経営理念に掲げる「建設業界での新たなる常識づくり」を促進するために、当社のオリジナルな施工法である「ホームメイキヤップ工法」の積極的な拡大展開を志向し、新たに大阪支店・広島支店の営業拠点を設置しました。

また、道路や鉄道等の構造物の新設・補修工事においての施工法として、業界で注目されている「スケルトンはく落防災コーティング」や、建築中の施工状況が管理出来る「施工進捗管理システム」及び建築物や構造物の超長期的な使用や資産価値の向上を促進するための補修情報を一元的に整備する「造物歴システム」の市場導入活動を引き続き行ってきました。

これらのことにより当第2四半期累計期間における売上高は543,713千円（前年同四半期比37.9%増）となりました。利益面は営業利益33,166千円（前年同四半期比511.1%増）、経常利益はデリバティブ評価益23,751千円、為替差損24,512千円等の計上により37,538千円（前年同四半期は6,332千円の経常損失）、四半期純利益は保険解約損15,176千円等の計上により10,008千円（前年同四半期は6,299千円の四半期純損失）となりました。

なお、セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

（ホームメイキヤップ事業）

ホームメイキヤップ事業におきましては、全国各地域へのホームメイキヤップ工法の浸透を図るための営業活動の強化活動の結果により、完成工事高は前年同期と比較して増加しました。この結果、ホームメイキヤップ事業における売上高は521,694千円、セグメント利益は90,853千円となりました。

（その他）

建築工事業、不動産業、加盟店関連事業で構成されるその他の事業における売上高は22,019千円、セグメント損失は1,095千円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ73,817千円増加し、1,177,168千円となりました。これは主に、未完工事支出金27,290千円の増加、現金及び預金85,079千円の増加、完工工事未収入金57,300千円の増加等によるものであります。

この結果、流動資産は576,328千円、固定資産は600,839千円となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ63,809千円増加し、764,117千円となりました。これは主に、工事未払金54,609千円の増加、短期借入金50,000千円の増加等によるものであります。

この結果、流動負債は424,711千円、固定負債は339,406千円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ10,009千円増加し、413,051千円となりました。これは、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期会計期間末に比べ109,441千円増加し、226,294千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は20,558千円(前年同四半期に使用した資金34,816千円)となりました。これは、主に税引前四半期純利益24,727千円、たな卸資産の増加額32,374千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は15,312千円(前年同四半期に得られた資金6,703千円)となりました。これは、主に保険積立金の積立による支出17,189千円、投資有価証券の取得による支出3,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は104,339千円(前年同四半期に得られた資金19,978千円)となりました。これは、長期借入れによる収入73,290千円、短期借入れによる収入50,000千円、長期借入金の返済による支出26,667千円等によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年7月15日に発表いたしました平成23年5月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. その他情報

（1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

（1）一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期会計期間末の貸倒実績率等が前会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

（2）繰延税金資産の回収可能性の判断

前会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②特有の会計処理

該当事項はありません。

（2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（資産除去債務に関する会計基準）

当第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第2四半期累計期間の営業利益及び経常利益はそれぞれ419千円減少しており、税引前四半期純利益は1,119千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は2,525千円あります。

（3）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年11月30日)	前会計年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	258,478	173,399
受取手形	28,200	59,893
完成工事未収入金	132,494	75,194
売掛金	2,595	687
原材料	32,998	27,913
未成工事支出金	117,899	90,609
その他	7,520	15,445
貸倒引当金	△3,858	△6,721
流动資産合計	576,328	436,421
固定資産		
有形固定資産	125,903	127,218
無形固定資産	2,950	3,362
投資その他の資産		
投資不動産	320,567	320,567
保険積立金	124,344	191,418
その他	38,747	34,006
貸倒引当金	△11,674	△9,643
投資その他の資産合計	471,985	536,348
固定資産合計	600,839	666,929
資産合計	1,177,168	1,103,351
負債の部		
流动負債		
工事未払金	144,825	90,216
買掛金	19,149	11,353
短期借入金	50,000	—
1年内返済予定の長期借入金	38,933	42,001
未払法人税等	12,310	19,591
完成工事補償引当金	26,011	21,604
その他	133,481	174,704
流动負債合計	424,711	359,471
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	226,624	237,834
資産除去債務	2,533	—
その他	10,248	3,003
固定負債合計	339,406	340,837
負債合計	764,117	700,308

(単位:千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年11月30日)	前会計年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	185,012	185,012
資本剰余金	165,642	165,642
利益剰余金	62,397	52,388
株主資本合計	413,051	403,042
純資産合計	413,051	403,042
負債純資産合計	1,177,168	1,103,351

(2) 四半期損益計算書

【第2四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年6月1日 至 平成21年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年6月1日 至 平成22年11月30日)
売上高	394,301	543,713
売上原価	275,720	397,584
売上総利益	118,581	146,128
販売費及び一般管理費	113,153	112,961
営業利益	5,427	33,166
営業外収益		
デリバティブ評価益	5,513	23,751
不動産賃貸収入	9,158	9,149
その他	1,470	1,746
営業外収益合計	16,143	34,647
営業外費用		
為替差損	23,206	24,512
支払利息	3,834	4,935
その他	862	826
営業外費用合計	27,903	30,275
経常利益又は経常損失(△)	△6,332	37,538
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	3,064
特別利益合計	—	3,064
特別損失		
保険解約損	—	15,176
固定資産除却損	57	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	699
特別損失合計	57	15,876
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△6,390	24,727
法人税、住民税及び事業税	703	11,522
法人税等調整額	△794	3,196
法人税等合計	△90	14,719
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△6,299	10,008

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年 6月 1日 至 平成21年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年 6月 1日 至 平成22年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△6,390	24,727
減価償却費	3,223	4,497
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,203	△833
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	3,393	4,406
受取利息及び受取配当金	△191	△328
不動産賃貸収入	△6,935	△6,935
支払利息	3,834	4,935
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	699
保険解約損益(△は益)	—	15,176
売上債権の増減額(△は増加)	△55,543	△27,514
たな卸資産の増減額(△は増加)	△618	△32,374
仕入債務の増減額(△は減少)	50,947	62,404
その他	△8,410	△7,453
小計	△15,487	41,408
利息及び配当金の受取額	199	328
利息の支払額	△3,156	△2,925
法人税等の支払額	△16,371	△18,253
営業活動によるキャッシュ・フロー	△34,816	20,558
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△5
保険積立金の解約による収入	—	6,559
保険積立金の積立による支出	△717	△17,189
投資有価証券の取得による支出	△500	△3,000
貸付金の回収による収入	3,831	292
役員に対する短期貸付金の回収による収入	4,088	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△2,228
敷金及び保証金の回収による収入	—	260
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,703	△15,312
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	20,000	50,000
長期借入れによる収入	37,610	73,290
長期借入金の返済による支出	△37,631	△26,667
リース債務の返済による支出	—	△566
セールアンドリースバック取引による収入	—	8,283
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,978	104,339
現金及び現金同等物に係る換算差額	△22,883	△24,468
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△31,018	85,117
現金及び現金同等物の期首残高	147,871	141,176
現金及び現金同等物の四半期末残高	116,853	226,294

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期会計期間(自 平成22年9月1日 至 平成22年11月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報**【セグメント情報】**

(追加情報)

第1四半期会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社を構成する単位のうち分離された財務情報が入手可能のものであり、取締役会において配分すべき経営資源に関する意思決定が行われ、かつ業績を評価するために経営成績を定期的に検討するものであります。

なお、当社は事業本部を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「ホームメイキャップ事業」を報告セグメントとしております。「ホームメイキャップ事業」はホームメイキャップ工法にて、諸建造物における内外装リフォーム工事を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期累計期間(自 平成22年6月1日 至 平成22年11月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注)	合計
	ホームメイキャップ事業		
売上高			
(1) 外部顧客に対する売上高	521,694	22,019	543,713
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	521,694	22,019	543,713
セグメント利益又は損失(△)	90,853	△1,095	89,757

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事業、不動産業、加盟店関連事業を含んでおります。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主要内容(差異調整に関する事項)

当第2四半期累計期間(自 平成22年6月1日 至 平成22年11月30日)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント	90,853
「その他」の区分の損失(△)	△1,095
全社費用(注)	△56,590
四半期損益計算書の営業利益	33,166

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(生産、受注及び販売の状況)

(1) 生産実績

当第2四半期累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
ホームメイキヤップ事業	521,694	—
その他	22,019	—
合計	543,713	—

(注) 1 上記の金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
ホームメイキヤップ事業	414,070	—	147,591	—
その他	111,091	—	104,975	—
合計	525,161	—	252,567	—

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
ホームメイキヤップ事業	521,694	—
その他	22,019	—
合計	543,713	—

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。